



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
題字 井戸 知事

この一球
届け無事故へ
みんなの願い



【別名「播磨富士」と呼ばれる高御位山から望む日の出】

平成三十二年新春メッセージ
兵庫の新たな歴史を築く
井戸 敏三



新年あけましておめでとう
四月には平成が終わり、五月から新元号の新たな時代が幕を開けます。さらに、九月のラグビーワールドカップ世界大会を皮切りに二〇二一年のワールドマスターズゲームズ二〇二二関西に続くゴルフデンスポーツイヤーズがはじまります。二〇二五年大阪万博の開催も決定しました。今後、日本、関西、兵庫に世界の関心が集まることでしょう。

兵庫は、神戸港の開港以来、海外の文化や産業を取り入れ

日本を先導してきました。それだけに、この機を捉え、世界の成長を呼び込み、人口減少と高齢化が同時に進む中でも、将来にわたり活力に満ちた地域としなければなりません。

五国の多様性を活かし、「兵庫二〇三〇年の展望」が描く自分らしい生活や働き方ができる「すこやか兵庫」の実現をめざして、新時代のふるさと兵庫を創ります。

第一は、安全安心で豊かな暮らしの実現。頻発する自然

災害や来るべき大規模災害への備えを強化します。また、子育て環境の充実や医療介護体制の確保など、安心して暮らせる基盤をつくります。

第二は、未来へ続く地域活力の創出。次世代産業の創出や新事業展開の促進、農林水産業の基幹産業化を進めます。また、地域と世界で活躍できる人材の育成に加え、誰もが生涯活躍できるよう、学び直しや多様な働き方を支援します。

第三は、国内外との交流・環境の拡大。インバウンド対

策など内外からの誘客促進や五国の持つ資源を生かしたツーリズム人口の拡大、県民「ひょうごe県民」の登録など人口の環流促進を図ります。高速道路の整備や空港、港湾の有効利用など交流の基盤となる交通インフラを充実します。

いつの時代も、ふるさとの将来に夢や希望を持ち、果敢に挑む人々が兵庫の明日を切り拓いてきました。兵庫の新たな歴史を築くための第一歩を共に踏み出していきましょう。

兵庫県一五〇年
新スタート
五国を活かし
すこやかめざす

新年のあいさつ
公益財団法人 兵庫県消防協会
会長 岸谷 義雄



新年あけましておめでとう
平成三十二年の輝かしい新春を迎え、消防団員、消防職員並びにご家族の皆様にご挨拶申し上げます。

消防団員、消防職員の皆様方には、日々厳しい訓練を重ねられ、常日頃、昼夜を問わず住民の生命と暮らしを守るため献身的に尽力されておられますことに対しまして、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。また、平素は当協会の運営や活動に対し、格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

「平成」も残すところあと三ヶ月余りとなりました。振り返れば平成の三〇年間は、災害が多発した時代でした。二四年前、兵庫の大地を揺るがした阪神・淡路大震災。その後も東日本大震災、熊本地震、昨年大阪府北部地震、北海道胆振東部地震など、大きな地震が次々と日本列島を襲うほか、大雨や台風が激甚化しています。

このような状況の中、地域防災の中核を担う我々消防団の果たすべき役割はより一層重要性を増しており、それだけに地域住民の方々の消防団

に寄せる期待も益々大きくなっていきます。

皆様方には、消防人として高い誇りと、地域住民の生命、身体、財産を守るといふ消防の崇高な使命を達成するため、今後とも心身の鍛錬、技術の錬成に努めていただきますようお願い申し上げます。

当協会といたしましても、消防の持つ役割の重要性を深く認識し、地域の安全・安心の確保のため各種事業を積極的に推進しているところでございます。今後とも消防団の活性化を図り、社会環境の変化に即した消防団の充実強化

に傾注してまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年一年が災害のない平穏な年であることを祈願し、県下の消防団員、消防職員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭の辞

消防庁長官

黒田 武一郎



平成三十一年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などに御尽力いただき、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

消防災ヘリコプター墜落事故により、九名の方々の尊い命が失われたことは痛恨の極みであります。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

けた相互応援の強化や住民の円滑かつ安全な避難の確保など、我が国の消防防災行政は、回避できない自然災害から被害を最小限にできるよう、被災への不断の努力を続けてまいりました。

尊い犠牲となりました先人のご遺志にこたえるためにも、今後発生が危惧される南海トラフ地震や首都直下地震等の大規模災害に備え、緊急消防援助隊や地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織

の更なる充実強化、火災予防対策の推進など、一層の推進に取り組んでまいります。あわせて、新しい年を迎えて始まるG二〇大阪サミットや二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの大規模イベント開催時における安心・安全対策に取り組み、引き続き万全な消防・救急体制を整えてまいります。

我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしました。年頭の挨拶とさせていただきます。

「変化」のなか、さらなる充実発展をめざす 日本消防—新春ごあいさつ—

公益財団法人 日本消防協会
会長 秋本 敏文

秋本 敏文



明けましておめでとうございませう。兵庫県消防の皆様には、地域の安全のため日夜ご尽力頂いております。本当にありがとうございます。深く感謝申し上げます。

るように思われてなりません。台風といえば、以前は九州上陸が通常パターンでしたが、最近では迷い子の台風があったり、北海道東北上陸があったりします。局地的な集中豪雨も多く、これまでですと記録的大雨とよばれた大雨がもう並の大雨と感じられるようにさえなっております。兵庫県でも昨年は、台風二一号や西日本豪雨により、甚大な被害が発生しました。私は、

たように思われます。そのように環境が大きく変化するなかで、消防はこれに対応しながら使命を果たしていかなければなりません。日本消防協会では、昨年三月、自治体制度七〇周年を契機として、「変化への対応」を中心テーマとするシンポジウムを開催し、標記のタイトルの意見を公けにしました。その内容は多岐にわたっていますが、今年も私たちはその実現をめざして多方面の努力を重ねてまいります。

の直後に、私は消防庁長官に就任し、緊急消防援助隊の創設による全国的な応援体制の整備に関わりましたが、その時、これだけでなく、地域の状況に感じながら速やかに対応する地域の防災体制を強化しなければならぬと思ひ、全国にこのことを呼びかけました。

いかにして、地域の皆さんの総力結集のもと、地域のさまざまな状況に応じつつ、その地域にとって必要な情報の収集の確かな判断、そして迅速な行動を実行するようにしなければならぬと思われまふ。

新年のごあいさつとしては、今年が無事平穏なよい年でありたいと申し上げます。このところが普通なのですが、このところの災害の状況を見ておりますと、今年も油断できないなという気持ちの方が強くなっております。

二四年前、阪神淡路大震災

全国的な、広域的な取組みが必要なことも勿論ありますが、私は、「防災の原点は地域」ということを思いながら、平成二五年制定の「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨を

新日本消防会館の建設を進めていますが、新会館は文字通り日本消防の総合的な中核拠点であり、また市町村自治の一層の発展に寄与できるものにならなければならないと考えております。

いろいろな申しあげましたが、やはり、今年が無事平穏なよい年でありたいと心からお祈り申しあげ、兵庫県消防の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申しあげて新年のごあいさつとさせていただきます。

最近の災害は、数が多いだけでなく、様子が変わって

その実感がますます強くな

二四年前、阪神淡路大震災

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

公益財団法人
兵庫県消防協会

平成三二年元旦

総 裁 井戸 敏三

副 総 裁 金澤 和夫

会 長 岸谷 義雄

副 会 長 小西 元八

島田 幸司

石原 和彦

中 西 君一

大 塚 秀祐

釜 地 英雄

西 岡 安雄

荻 野 克己

高 田 光雄

平成三〇年 秋の叙勲(消防関係)伝達式が挙行政

(敬称略 順不同)

平成三〇年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六一七名、うち兵庫県では、元消防職員二名、元消防団員一六名が叙勲の榮に浴されました。

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進に寄与した消防関係の方々です。叙勲の伝達式は、平成三〇年一月一二日(月)にニッショーホールで盛大に挙行政されました。

《全国消防関係受章者数》

瑞宝小綬章	四〇名
旭日双光章	三名
瑞宝双光章	六一名
瑞宝単光章	五一三名
計	六一七名

《兵庫県下受章者(消防功勞)》

◎瑞宝小綬章

元伊丹市 消防正監 下谷 憲一



【受賞者の皆様】

元加古川市 消防正監 山本 臣一



◎瑞宝双光章

元姫路市飾磨消防団 団長 富田 重二



元朝来市消防団 団長 尾崎 義治



元宍粟市消防団 団長 春名 玄貴



元佐用町消防団 団長 松田 芳夫



◎瑞宝単光章

元猪名川町消防団 団長 福田 康司



元神戸市灘消防団 副団長 中本 榮市



元伊丹市消防団 副団長 永島 健一



元たつの市消防団 副団長 武内 憲成



元千種町消防団 副団長 尾畠 正夫



元佐用町消防団 副団長 入江 進



元香美町消防団 副団長 田淵 保男



元尼崎市消防団 分団長 高橋 清



元西宮市消防団 分団長 寛 正治



元加古川市消防団 分団長 宮永 卓郎



元宝塚市消防団 分団長 石井 幹男



元高砂市消防団 副分団長 中野 洋平



平成三〇年度秋の褒章伝達式

《平成三〇年秋の褒章が 一月三日に発令》

消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者に授与される藍綬褒章は全国で九二名、うち兵庫県では神戸市垂水消防団の中西団長が受章の榮譽に輝きました。

《兵庫県下受章者(消防功績)》

◎藍綬褒章

神戸市垂水消防団 団長 中西 政嗣



消防関係褒章伝達式
総務省 消防庁

第三一回 危険業務従事者叙勲が 平成三〇年一月二日に発令

(敬称略 順不同)

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年により著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。

受章者は、全国で瑞宝双光章三〇六名、瑞宝単光章三二四名、計六二〇名、うち兵庫県関係では、二二名の消防職員が受章されました。

叙勲の伝達式は、平成三〇年一月八日(木)に総務省講堂で盛大に挙行されました。

兵庫県下受章者(消防関係)

◎瑞宝双光章



【受賞者の皆様】



元神戸市消防局
消防監 中田 良則



元神戸市消防局
消防正監 宮谷 忠治



元神戸市消防局
消防正監 棟長 正昭



元三田市消防本部
消防監 谷石 昌一



元川西市消防本部
消防監 藪野 正巳



元宝塚市消防本部
消防監 遠藤 聰



元西宮市消防局
消防監 田中 豊



元姫路市消防局
消防司令長 川合 道生



元神戸市消防局
消防司令長 南 正次



元神戸市消防局
消防司令長 人見 彰



元神戸市消防局
消防司令長 小前 實



元神戸市消防局
消防司令長 岩井 昭

◎瑞宝単光章



元北はりま消防組合消防本部
消防司令長 内橋 和宏



元加古川市消防本部
消防司令長 高見 昌弘



元伊丹市消防局
消防司令長 松原 猛



元明石市消防本部
消防司令長 堀田 豊見



元尼崎市消防局
消防司令長 藤村 耕一



元朝来市消防本部
消防司令 藤原 兼人



元朝来市消防本部
消防司令 尾花 聡



元小野市消防本部
消防司令 小西 克己



元三木市消防本部
消防司令 山内 清孝



元西はりま消防本部
消防司令長 内海 一義



第二四回 全国女性消防団員活性化滋賀大会開催

(公財)兵庫県消防協会事務局

第二四回全国女性消防団員活性化滋賀大会が、平成三〇年一月九日(金)にウカルちゃんアリーナ(滋賀県立体育館)にて開催されました。大会は、全国から約三、七〇〇名の消防職・団員が参加し、兵庫県からも岸谷会長以下総勢一五〇名が参加しました。

まず、大津市消防音楽隊によるウエルカムコンサートで幕を開け、その後、大会旗入场、開会宣言、国歌斉唱、主催者挨拶、開催地知事、市長の挨拶と進行了しました。

開会式の後には、午前と午後それぞれ四団体が活動事例発表及び防火防災啓発劇を行いました。どの団体も、活発な活動内容や、効果的な防火防災啓発活動を発表し、参加者にとっては今後の活動にプラスになるような、良い刺激を与えてもらうことができました。

記念講演では、元WBCバントム級チャンピオンの山中慎介氏により『継続は力なり』という演題で講演が行われ、何事も継続し、努力し続けることが大きな力となり、今後の糧になっていくことを教えていただきました。会場へチャンピオンベルトを持って来てくださったたり、写真撮影にも応じてくださったりと、気さくな人柄に、女性消防団員の皆さんからとても喜ばれていました。

最後に、大会宣言と次回開催地の青森県へ大会旗の引継ぎが行われ、閉会宣言の後に大会は幕を閉じました。

スホテルにおいて情報交流会が行われ、盛会のうちに終了しました。来年度の開催地は青森県青森市「マエダアリーナ」にて九月一九日(木)に開催されます。遠方で

この度兵庫県から参加した団体は次のとおりです。
 神戸市東灘消防団
 神戸市灘消防団
 神戸市中央消防団
 神戸市兵庫消防団

の開催となりますが、兵庫県からたくさんの方々が参加されることを願っています。

神戸市北消防団
 神戸市長田消防団
 神戸市垂水消防団
 姫路市姫路東消防団
 姫路市飾磨消防団
 姫路市西消防団
 明石市消防団
 伊丹市消防団
 豊岡市出石消防団
 加古川市消防団



【開会式】



【滋賀県のゆるキャラ大集合】



【大会旗が滋賀県から青森県へ】



【大阪府高槻消防団の人形劇】



【次回開催地青森県からの挨拶】



【大分県佐伯市消防団の紙芝居】



【丹波市消防団・播磨町消防団の展示】



【加古川市消防団の展示】

がんばってます、女性消防団員

『全国優勝をめざして』

芦屋市女性消防団 バードーズ

平成七年の阪神・淡路大震災による壊滅的な被害を受け、地域の防災力を強化する一環として、平成八年広く市民から募集する形で芦屋市女性消防団員「バードーズ（通称）」が誕生しました。

さて、芦屋市女性消防団員「バードーズ」は、今年一月に開催される第二四回全国女性消防操法大会に、兵庫県代表として出場することとなりました。一昨年から始めた訓練も折り返し点を迎え、大会まで残すところ一年を切りました。

訓練を始めた当初は、敬礼ひとつ揃わなかった私たちですが、消防団幹部と常備消防の方々にご指導を受け、少しずつですが規律動作も身に付き始め、また日々の訓練を通してチームとしての団結力も強くなりつつあると実感しています。

訓練に対する想いも日々重ねることに熱くなり、時には厳しく団員同士で指摘し合い、試行錯誤を繰り返しながら、仲間とともにひとつの目標に向かって日々奮闘しています。タイムが伸びずに悔しい思いをしたり、ミスが続いて落ち込んだりと、不安に思う時もありますが、サポートして下さる周りの方々に感謝し、皆で優勝を必ず勝ち取るという気持ちで臨んでいきたいと思えます。



【バードーズのみなさん】



【訓練の様子】

消防団ピックアップ

『自分たちの地域は自分たちで守る』

豊岡市豊岡消防団

豊岡市は、平成一七年四月一日、兵庫県の北東部に位置する一市五町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併してできたまちです。北は日本海、東は京都府に接し、中央部には一級河川円山川が悠然と流れています。また海岸部は山陰海岸国立公園に指定されている等多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれています。

豊岡市内には六つの消防団（豊岡・城崎・竹野・日高・出石・但東）があり、広大な市域の中でそれぞれに活動しています。豊岡市豊岡消防団は一四個分団、四六八名の団員で構成されています。常日頃から市民の生命・身体・財産を守るため、水害に備えた水防訓練、大規模火災を想定した中継訓練、木造家屋密集街区火災を想定した図上訓練などを行っています。

また、市内の学校や企業で行われる避難訓練や救命講習会等に積極的に協力し、地域防災力の向上にも努めています。

【夏季訓練】

消防団員の技術及び士気向上を図ることを目的とし毎年訓練を行っています。中でも今年度は、日頃の訓練成果を発揮する場として、三年に一度開催している消防操法大会を実施しました。



【消防操法大会】

【台風第二三号メモリアル水防訓練】

豊岡市は、平成一六年一〇月の台風第二三号により、円山川が決壊し、市内全域で大きな被害を受けました。この災害を教訓に、毎年メモリアル事業として、消防団や地域の自主防災組織、国・県・市の行政職員が一体となって水防訓練を実施しています。積み土のう工法、月の輪工法などの実践訓練を行い、水害を未然に防ぐための知識と技術力を身につけています。



【台風第二三号メモリアル水防訓練】

【S・K・Y・T研修】

消防団員の公務災害防止のための研修として、消防基金が助成・後援を行っているS・K・Y・T研修を毎年実施し、消防活動中の危険を予知する

とともに、これに適切に対応できる能力を養成しています。『消防団活動推進委員会』消防団の円滑な運営と団員の資質向上を目的として設置されており、以下に水難救助委員会、水防指導委員会、ポンプ操法委員会、応急手当普及委員会などがあります。中でも水難救助委員会は、救助

『丹波市消防団です！』

丹波市消防団は平成一六年一月一日に旧氷上郡六町（柏原町・氷上町・青垣町・春日町・山南町・市島町）が合併し、二、八四九名で発足しました。その後、丹波市消防審議会の答申のもと、幾度と機構改革を行い、定数の改正が行われ、平成二七年四月一日の第二次再編により条例定数一、七〇六名で構成されています。

丹波市消防団では、各地域単位で独自の訓練や研修会を実施しています。その一例を紹介いたします。

丹波市消防本部と丹波市消防団で合同訓練を実施

消防団独自の訓練では経験できないような丹波市消防本部と丹波市消防団の合同による山林火災を想定した訓練を実施しました。

特に消防本部職員と地元消防団による連携について重点的に訓練し、緊急時にも活かせることができるよう消防団独自の訓練では学ぶことができない経験をすることができました。

今回、消防本部と消防団が連携した訓練をすることで改めて連携した消火活動の難し

用ボートを五艇所有しており、ボートの点検や操船訓練などを行っています。また、兵庫県赤十字血液センターの協力のもと、約二〇〇名の消防団員が春と秋の毎年二回、献血を行っています。また、ゴルフコンペやボウリング大会を行うなど、団員相互の交流を通じた消防団全体の団結力の

丹波市消防団

さや知識を学ぶことができました。



【丹波市消防本部と丹波市消防団で合同訓練】



自主防災とタイアップで地域消防力強化

火災の際、延焼を最小限に抑えるのが現地の自主防災組織です。丹波市では消防団OBも加わり自主防災組織を形成して身近な所の防災力強化に努めています。そこに防災会や地元消防団も加わり、地域一体となって地域消防力の強化を図っています。消火栓による初期消火の必要性を広く理解していただく



【水難救助委員会操船訓練】

め、一連の実地訓練を行い、火の特性と消火に関する知識を身に付け、有事の対応に備える活動を続けています。



【自主防災とタイアップで地域防災力強化】

地元小学校へ消防団について講演

市内の小学校の子供たちに消防署と消防団の違いについて、お話をいただきました。先生から依頼がありましたので、講師として出向いて消防署と消防団がどのような点で違いがあるのか講演してきました。その後、グラウンドにて消防操法を子供たちに披露して消防車で消防団員がどのように水を出して消火活動を行うのか間近で見てもらい学習していただきました。

わが町の団長さん

「郷土の誇り」

多可町消防団長

遠藤 泰尚



多可町は、兵庫県の中央やや東に位置し、播磨の奥座敷とも呼ばれています。

豊かな自然と人間の生活バランスが保たれた住みやすいまちで、日本一の酒造好適米「山田錦」、日本一の手漉き和紙「杉原紙」、国民の祝日「敬老の日」発祥の地として広く情報発信しています。

遠藤団長は、昭和六一年四月に旧加美町消防団に入団され、平成一七年一月に多可郡三町が合併し多可町の誕生とともに発足した多可町消防団の分団長に就任、後に副団長として活躍され、平成三〇年四月に消防団長に就任されました。

団長は「自分の町は自分達で守る」という郷土愛護の精神を基に、予防消防に力を注がれながら、平成三一年度に常備消防の多可北、多可南出張所がそれぞれ新たに開所することから、常備消防との連携や協力体制の確立にも取り組まれています。

団長が分団長、副団長時代には、積極的に町内各部のポンプ操法を指導され、県大会の常連町の礎を築かれるなどポンプ操法の生きた教本との

呼び名の高い団長さんです。

また、建築業を営む傍ら、廃棄された可搬ポンプを準備用に再利用できるまでに修復されるなど、プロ顔負けの技術を持たれています。

消防団活動の経験と知識が豊富な遠藤団長には、日頃から健康に留意され、先任の築かれた「郷土の誇り多可町消防団」の善き伝統を受け継いでいかれながら、団員が活動し易い新しい消防団づくりを期待しております。

「一念不動の団長」

市川町消防団長

牧田 勝広



市川町は、兵庫県の中央部からやや南西部に位置し、町の中央部を町名の由来となっている清流・市川が流れる伝統と緑豊かな町です。

牧田団長は、平成一七年四月に入団以降、持ち前の正義感と熱意で副分団長、分団長を歴任され、平成二六年四月に副団長に、平成三〇年四月には第三二代団長に就任され、現在二六分団、五三五名の団員の先頭に立ち、地域の安全と安心を守るため日夜努力されています。

団長は、三九歳にして団長に就任され、県下最年少の団長として、パワー溢れる日々を送られています。団長の非常に穏やかで、周囲を温かく和ませるお人柄もあり、地域住民や団員一人一人との距離感が近く、若くて優しい団長として有名ですが、ひと度災害が発生するとすばやく現場に駆けつけ、情報収集を実施し、先頭に立って防衛体制を整えるなど、地域住民が安心して暮らせるよう常に熱く指揮を取られ、団員はもとより幹部や地域住民からの信望も厚いです。

また、年々減少傾向にある消防団員の確保のため、旧体制までは学生入団を認めなかった所ですが、新体制より認めるようにするなど少しずつ制度変更を行い、活気ある消防団を維持するため市川町に新しい風を吹かせて下さっています。



消防団の一員となつて



神戸市灘消防団 第四分団 中内 伸

私は現在、神戸市灘消防団第四分団に団員として所属し、活動しています。

勿論、多くの皆様と同様に仕事を持つ社会人です。私が消防団に入団したのは平成二九年七月で、同年一〇月に行われる「神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会」に選手として出場してみないかと分団長からの誘いを受け興味を持ち入団に至りました。操法の訓練は、大会の数ヶ月前から始まりました。消防団員は昼間働いている人が多いため、多くの訓練は夜間に行われました。夜間訓練は照明や発電機等、昼間に訓練を行う時より多くの資機材が必要とされましたが、資器材の運搬、設営及び撤収等、消防団の仲間協力していただき、訓練に集中できる環境を消防団全体で作っていただきました。

消防団に入つて



赤穂市消防団 第一分団 篠原 拓馬

消防団員は地域の安全を守るために、消火活動や水防活動を行う。また、災害予防のために、火災予防広報や年末警戒、台風等接近時の巡回など、地域に根付いて活動している。

活動の中心には団員にとって身近な地域の方々が多い。子どもの頃から見守ってくれた爺さん婆さんも多く、「お疲れさん」「ありがとう」と労いをいただくし、応援もしてくれる。この言葉は魔法のようで、「自分も地域の安全を築く一員だ」という自覚が芽生える。

我が分団は、操法大会県優勝を目指している。私

しかし、満を持して迎えた平成二九年一〇月二九日の大会は、台風第二二号の影響により中止となりました。

大会出場のため多くの時間を訓練に費やした私たち消防団員の想いを、多くの消防団長に汲んでいただき、平成三〇年三月に「記録会」という形で大会が開催され、私たち神戸市灘消防団は見事三位に入賞することができました。

大会後に開かれた慰労会では、今までの努力が実を結んだ充実感と達成感で満たされていました。

訓練中は、精神的、肉体的にきつく苦労しましたが、第三位入賞という結果は、私たち選手だけでなく訓練に協力いただいた各分団の方々や、訓練担当の消防署員の方々の協力によるものだと思いの気持ちでいっぱいになりました。

また、人と人との絆は、こうして築かれるのだと改めて実感し、本当に貴重な経験をさせていただきました。

私一人では無力ですが、消防団や地域の方々協力し、少しでも地域防災の力となるよう頑張ろうと思っています。

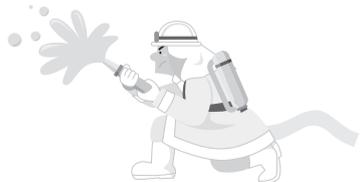
そして、これからは一人でも多くの方に消防団へ入団していただき、新しい仲間作りも進めていきたいと考えています。

は、今年度大会の選手に選ばれ、一年前から地道に、寒い時も暑い時も、妥協せずに訓練に励んだ。だから赤穂市大会と西播大会では、優勝しても「訓練の成果」だと落ち着いていた。

しかし、県大会では三位入賞も果たせず、ぽかんとした心の空白の後は悔しくて悔しくて、涙が止まらなかつた。周りが驚くほど、泣いた。努力を惜しまず必死で訓練してきた証だと、今は思える。そして、分団長から若手団員までの全団員が信頼し、助け合える分団の雰囲気、最後まで頑張れた要因だと気づき、全分団員に感謝している。

そして、大人になってから一生懸命になれることに出会え、「消防団に入つてよかった。」と心から思っている。

この気持ちを忘れず、地域の方々から「地域を守る身近な防人」として認められる存在であり続けられるように、今後も消防団員として、仲間と共に鋭意邁進したい。



地域のお知らせ

日本酒発祥の地

宍粟市

●宍粟市の紹介

宍粟市は、鳥取県・岡山県と隣接した兵庫県中西部に位置し、琵琶湖とほぼ同じ大きさの六五八km²の面積を有しています。そのうち約九割が森林であり、その中には県内最高峰の水ノ山をはじめ、○○○メートルを超える山々がそびえ、県下を代表する一級河川の揖保川や日本の名水百選の千種川が流れ、自然豊かで四季折々の美しい風景が楽しめるまちです。

●日本酒のふるさと

市内には、数多くの史跡や神話・伝説が残り、奈良時代の和銅六（七一三）年に編纂された「播磨国風土記」の一節である宍粟の郡庭音村の条には、宍粟が日本酒発祥の地といわれるようになった日本酒最古の記述が残されています。

「大神の御糧、沾れて衛生えき、すわはち、酒を醸さしめて、庭酒に献りて宴しき…」

意識すると、「神様にお供えたご飯にかびが生えてきたので、それでお酒造って、神様に献上し、宴を行った」となります。ここでの「かび」とは、「麴」のことである

と考えられ、現在の宍粟市一宮町能倉にある庭田神社で、はじめて米・麴・水を用いた酒が造られたとされています。

●宍粟の酒蔵通り

豊かな自然があり、日本酒の発祥の地といわれる宍粟には、江戸時代中期の明和五（一七六八）年に創業された老松酒造と、江戸時代末期の天保八（一八三七）年に創業された山陽酒造という二つの酒蔵が山崎地区にあります。いずれの酒造も、建築当時のままの歴史と伝統のある造り酒屋としての風格を有した佇まいや外観を保持していることなどが認められ、平成二二年には兵庫県景観形成重要建造物の指定を受けました。

近年、そのような風情ある酒蔵通りを含めた山崎地区市街地のにぎわいの再興を図るグループ「よいまちプロジェクト」（山崎中心市街地活性化委員会）が、兵庫県地域再生大作戦にも取り組まれ、長年空き家であった町屋の改修や、周辺の藤や紅葉の見ごろにあわせたイベントなど、山崎地区においてさまざまな企画を実施されています。その活動のおか



【かび(麴)を生やしたと伝えられる庭田神社

ぬくみの泉



【老松酒造】



【山陽酒造】

※上記三点、しろう森林王国観光協会提供

げもあり交流人口が徐々に増加しており、今後はさらにまちがにぎわい、地域の活性化が大いに期待されています。また、そのメンバーの中には、地元の消防団の現役団員やOBもそれぞれ立場から深く関わっており、日々活動されています。

みなさん、酒蔵どおりへ一度お越しください。宍粟のお酒と町並みをご堪能いただければ幸いです。

城下町すもと

洲本市

洲本市は、淡路島の中央部に位置し、平成一八年二月に旧洲本市と旧五色町が合併して現在の新しい「洲本市」となりました。市内には、三熊山や五色浜などの瀬戸内海国立公園の指定地域があり、一年を通して温暖な気候で、おいしい食材の宝庫でもあります。そこで洲本市について少し紹介させていただきます。

《洲本城》

室町時代末期に築城され、西日本最大級の水軍の山城といわれています。本丸石垣からは市内の町並みのみならず、大浜海岸から紀淡海峡を一望することができ、国の指定史跡にもなっており、続日本一〇〇名城にも選定されています。



洲本城からの景色

昨秋には洲本城まつりが開催され、甲冑をまとった武者行列が城内を練り歩きました。



【イベントの様子(改修した町屋の前)】



洲本城まつり

《レトロなまち歩き》

市内の中心部は数多くの商家が軒を連ねていました。しかし、少子高齢化の影響もあり、商店街や民家にも空きが目立つようになり、その改善策・対応策が課題となっていました。そこで、昔ながらの古い商店や民家、細い路地といった古き良き遺産をどうにか活かさないかを考慮し、現代のグルメ、アート作品、音楽やダンスをイベントに織り交ぜ、新しい魅力を発信しています。

イベントは、春、秋の年二回実施されており、毎年一万人の方が訪れる一大イベントとなっています。ぜひ、お近くへお越しの際は、城下町すもとを目で、肌で感じてみてください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



レトロなまち歩き

ウェルネス都市加古川

加古川市

加古川市は県南部に広がる播磨平野の東部を流れる県下最大の一級河川「加古川」が瀬戸内海に悠々とそそぐ下流域に位置しています。平成一二年に市民の健康志向の高まりと明るく健全な社会環境づくりが求められる中、市民のウェルネスライフを積極的に支援していくために「ウェルネス都市宣言」を行いました。

このウェルネス都市加古川を代表するイベントを紹介します。平成三〇年一月一日(土) 一日(日)の二日間、秋の播磨路を歩くウォーキングイベント「加古川ツールドーマーチ」を開催しました。市制四〇周年記念事業として平成二二年に始まり、今回で二九回目。両日とも中央会場である加古川市役所前広場をスタート・ゴール地点として、距離別に四〇km、二〇km、一〇km、五kmの四コースが設定されており、上級者から小さなお子様連れのご家族まで幅広い方が楽しめるイベントとして、県外からも多くの方が参加する大会となっています。特に、コース上で受けられる「おもてなし」は加古川の代名詞として、全国のウォーカーから好評を得ています。

一日目は、加古川市の北西部を歩くコースとなっており、見どころとしては、渡り鳥の飛来場所として有名な平荘湖、春の桜並木が有名な日岡山公園、黒田官兵衛の妻「光姫」ゆかりの志方八幡宮があります。お薦めは二〇kmコースで日本ウォーキング協会の「歩きたくなる道五〇〇選」にも選出されています。おもてなしでは、豚汁、ぜんざい、おでん等が振る舞われ大会を盛り上げ、また同日、加古川河川敷では、「加古川風あげまつり」が開催され、多くのウォーカーの足を止め、心を和ませました。

二日目は、加古川市の南東部及び隣接する稲美町、播磨町を巡るコースで、県下二番目の大きさを誇る天満大池(稲美町)や、弥生時代の集落跡の大中遺跡(播磨町)、播磨の法隆寺といわれている鶴林寺等の史跡も数多く見ることが出来ます。ウォーカーからの人気スポットは、加古川河口から望む瀬戸内海の景色「島々の中に沈みゆく夕日を見て感動しました」等の声をいただきました。この日はコース上で兵庫大学の大学祭や地元卸団地主催の団地まつりが開催され、多くの人々で一層賑わいました。

さらに大会を盛り上げる特別企画として、今年地元中学生による歓迎演奏「ミュージックフェスティバル」、子供向けリアル体験型謎解き



名な平荘湖、春の桜並木が有名な日岡山公園、黒田官兵衛の妻「光姫」ゆかりの志方八幡宮があります。お薦めは二〇kmコースで日本ウォーキング協会の「歩きたくなる道五〇〇選」にも選出されています。おもてなしでは、豚汁、ぜんざい、おでん等が振る舞われ大会を盛り上げ、また同日、加古川河川敷では、「加古川風あげまつり」が開催され、多くのウォーカーの足を止め、心を和ませました。

二日目は、加古川市の南東部及び隣接する稲美町、播磨町を巡るコースで、県下二番目の大きさを誇る天満大池(稲美町)や、弥生時代の集落跡の大中遺跡(播磨町)、播磨の法隆寺といわれている鶴林寺等の史跡も数多く見ることが出来ます。ウォーカーからの人気スポットは、加古川河口から望む瀬戸内海の景色「島々の中に沈みゆく夕日を見て感動しました」等の声をいただきました。この日はコース上で兵庫大学の大学祭や地元卸団地主催の団地まつりが開催され、多くの人々で一層賑わいました。

さらに大会を盛り上げる特別企画として、今年地元中学生による歓迎演奏「ミュージックフェスティバル」、子供向けリアル体験型謎解き

さらに大会を盛り上げる特別企画として、今年地元中学生による歓迎演奏「ミュージックフェスティバル」、子供向けリアル体験型謎解き

ゲーム「輪廻転生伝説」、コスプレフォトコンテスト「加古川コスマーチ」を実施しました。特に人気があった「輪廻転生伝説」は、出題されたヒントをもとにコース上のポイントに隠されている宝を探し出し、全て集めた方にはさらに記念バッチが貰えるというもので、多くの子どもたちが宝を見つけて大喜びしていました。

また、中央広場では、地元グルメ「かつめし」をはじめとした飲食ブースや、マッサージ、健康に関する無料相談等の健康ブースも立ち並び、完歩歓迎として、ステージ上では演奏や演舞のほか、加古川和牛が当たる完歩抽選会も実施しました。

二日間で延べ八、三九八名のウォーカーが秋深まる播磨路を満喫しました。

次回は、節目となる三〇回大会。ぜひ、加古川ツールドーマーチにご参加ください。お待ちしております。

編集後記

あけましておめでとございます。

毎日寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。新年を迎え、決意も新たに消防団活動に取り組んでおられることと存じます。

さて、今月号では各団体の代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、三面・四面では、秋の叙勲・秋の褒章・危険業務従事者叙勲の記事を掲載しております。受章者の皆様、誠におめでとうございます。

本年も引き続き「兵庫消防」のご愛読をよろしくお願いたします。